

インナー大会プレゼン部門 2017 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) コマザワダイガク	フリガナ) ケイザイガクブ	フリガナ) マツダゼミナール
駒澤大学	経済学部	松田ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 動画 (有・無)
フリガナ) カラフルバン	フリガナ) クロカワリョウタ	5	無
Colorful 班	黒川稜太		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール (具体的に使用するツールを明記してください)
パワーポイント

研究テーマ (発表タイトル)
Once More Chance

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

colorful 班の提案する「彩 cle box」を使った持ち帰り制度を、飲食店が導入することで、利用者に対して食品廃棄の問題について周知し、食べ残しを持ち帰ることを習慣化させる。これにより食品廃棄の削減とともに企業の社会的評価の向上を目指す。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

日本での食品廃棄量は平成 26 年度時点で、約 2,775 万トンあり、その中でまだ食べられるのに捨てられてしまう食品ロスは約 621 万トンある。WFP(世界食糧計画)によると、食糧援助量は約 3 2 0 万トンである。つまり日本の食品ロスは WFP の食料援助量の約 2 倍に相当する。また、家庭と企業との廃棄量を比較すると、家庭の廃棄量は減少傾向にあるのに対して、企業の廃棄量は家庭の約 2 倍と、ここ数年増加しており、今後食品廃棄量は年々増加していく事も考えられる。企業の中でも外食産業は多様な種類の食品廃棄物が同時に発生するため、リサイクルが困難であり、廃棄量が多いにも関わらず、再生利用はあまりされていないという状況がある。

飲食店で現在行われている食品廃棄に対する対策は仕込み段階でのものがほとんどで、食べ残しに対しては十分な対策がなされていない。利用者の多くは食べ残しを持ち帰りたいとは思っているが、日本では食中毒などの原因となる雑菌に対する考え方が

厳しいことから食べ残しを持ち帰るという習慣が定着していない。

3. 研究テーマの課題

飲食店から廃棄されている食品は再生利用が困難であり、また仕込み段階での対策は行われている一方で食べ残しに対する対策はあまり行われていない。

アメリカでは、ドギーバックが普及しており、食べ残しを持ち帰る習慣が定着している一方、日本では気候や食中毒の原因となる雑菌に対する考え方の違いから、食べ残しを持ち帰る習慣がなくドギーバックも普及していない。

以上の二点を踏まえて、私たちは飲食店の食べ残しをそのまま廃棄するのではなく、利用者が持ち帰るしきみを新たに作り出すことで、外食時の食品廃棄を削減することができるのではないかと考えた。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

課題解決のため飲食店でドギーバックを活用し、利用者が食べ残しを持ち帰ることができるという制度を導入することで、食品廃棄の削減を目指す。また企画をより効率的なものにするため、製造会社とともに colorful 班独自のドギーバック「彩 cle box」を作製する。「彩 cle box」はポリプロピレン製で洗って繰り返し使用でき、折りたたみ式で、持ち運びに便利なものとする。食品廃棄という問題に取り組むことに加え、「彩 cle box」の売り上げの一部を環境保護団体に寄付することで、企業の社会的評価の向上も同時に目指す。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

小さな子供がいる母親 112 人に食べ残しや本企画に対する需要のアンケートを行い、またチェーンレストランと交渉を行う中で、利用者と企業両方の視点からの意見を踏まえたドギーバック「彩 cle box」のデザインや機能について考えた。

「彩 cle box」の作製に協力していただける製造会社と交渉を行い、本企画に関する前向きな回答や、チェーンレストランとの交渉によってドギーバックを導入することに対し検討可能という回答をもらった。

6. 結果や今後の取り組み

本企画の導入前より飲食店の食べ残しによる食品廃棄が減ること、利用者が「彩 cle box」をはじめとしたドギーバックを持ち歩くようになり、日本でも食べ残しを持ち帰る習慣が定着することを到達目標として、今後この活動を様々な飲食店に広めていき、食べ残しによる食品廃棄を減らす一歩となるように取り組んでいく。

7. 参考文献

- ・川村雅彦（2015年）『CSR 経営パーフェクトガイド』ウズワークス出版。
- ・高橋正郎（2013年）『食料経済：フードシステムから見た食料問題』オーム社出版。
- ・トリストラム・スチュアート著、中村友訳（2010年）『世界の食料ムダ捨て事情』日本放送出版協会。
- ・福渡和子（2015年）『生ごみは燃料か』幻冬舎メディアコンサルティング出版。
- ・環境省「食品廃棄物等の利用状況等（平成26年度推計）＜概念図＞」(最終アクセス日：2017/09/27)
<http://www.env.go.jp/press/files/jp/105509.pdf>
- ・環境省「我が国の食品ロス・食品廃棄物等の利用状況等の公表について」(最終アクセス日：2017/09/27)
<http://www.env.go.jp/press/103939.html>
- ・世界食糧計画「数字で見る国連 WFP2014」(最終アクセス日：2017/09/27)
http://ja.wfp.org/sites/default/files/ja/file/2014_ann_rep_japanese.pdf#search
- ・農林水産省「食品ロスの削減」。(最終アクセス日：2017/09/27)
http://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/161227_9.html
- ・農林水産省「食品循環資源の再生利用等実態調査」(最終アクセス日：2017/09/27)
http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/zyunkan_sigen/index.html
- ・リゾートトラストアンケート「食品大量廃棄問題について」(最終アクセス日：2017/09/27)
https://reserve.resort.co.jp/reservation/wonder/enquete/enquete2015/2016_03_4.html

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、インナー大会・東京経済大学大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経BP

マーケティング社様に作製していただく大会結果 HP に本企画シートは掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1〜7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の(過去に他誌・HP などに発表されていない)ものに限ります。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※プレゼンツールを使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを 4 ページ以内におさめて、提出してください